北海道
日伊協会会報

VOL. 54号　2015年12月
発行　北海道日伊協会
事務局　札幌市中央区南１条東２丁目
ブライトサッポロ内
電話(011)241-0345 FAX (011)241-0567

ミラノ万博

「北海道の日」を全面支援

マリアンナさんが魅力発信の講演

NATSUKI さんは「虹雪」歌う

ミラノ国際博覧会の日本館「北海道の日」は10月６日から８日まで３日間開かれ、前日の５日行われた「北海道の魅力発信レセプション」（在ミラノ日本国総領事公邸）と合わせて“北海道の食”の本格的なイタリア・欧州デビューを果たしました。北海道日伊協会のマリアンナ・チェスパさん（当会伊語教室講師、札幌大谷大学非常勤講師）は、レセプションの主役のプレゼンテーターに抜擢され、在札幌６年の体験で知った北海道の魅力をたっぷり紹介しました。また、ゴスペルシンガーのNATSUKIさん（法人会員ブライトサッポロ所属）はオープニングで「虹と雪のバラード」などで北海道を歌い上げ（**写真㊧**）、会員の活躍が北海道の日を大いに盛り上げました（**２、３面に講演要旨と写真グラフ**）。

５日のレセプション、マリアンナさんはイタリア政府やメディア関係者ら招待者を前に「北海道の魅力」と題して講演しました。その中で、東京や大阪と違って毎日刺激的な経験をできるところではないが、との条件を付けたうえで、札幌は「独自のすばらしさを感じさせる街」とし、６ヵ月勉強だけするつもりだったが滞在６年になってしまった」と、そこで暮らして発見した魅力を話しました。翌日からの「北海道の日」、マリアンナさんは法被のユニフォームを着て会場案内のお手伝い（**写真㊨**）。ルーカ・グアダニュオロさん（会員、北大研究生）がレポートしたビデオレターも公開されました。

マリアンナ講演「魅力５項目」

① 環境が良い。自然が多く、道が広く、空気がきれい。そんなことはつまらないことと思っていたのは間違いだった②食べ物がおいしいとは聞いていたが本当だった③豊かな自然。雪の楽しさを知った④北大は観光スポット。実に自然が豊か⑤四季の色彩がこれほど変化する所を知らない。

Le meraviglie di Hokkaido　Marianna Cespa　Milano Expo

マリアンナさんが北海道の魅力発信レセプションで話したイタリア語講演「北海道の魅力」の要旨を紹介します。（イタリア語テキストを希望する方はメールアドレスを連絡ください。データをお送りします）

皆様の前で北海道の魅力を紹介すること、たいへん光栄に思います。まず、私は東京や大阪のような人気のある街ではなく、**なぜ札幌に住んでいるのか**、またなぜ自分にとって北海道が魅力的かという点から始めたいと思います。

私は、2004 年と 2005 年に大阪の桃山学院大学と千葉県の神田外語大学でそれぞれ1ヵ月間と6ヵ月間留学していましたが、当時、九州と北海道に行く機会がありませんでした。北海道出身の友達によると、北海道は自然が多い、乳製品が日本一、りんご・ジャガイモがとても美味しい。そして、冬が厳しくて長い、また雪が積もると道がわからなくなるそうでした。海のそばに生まれて育った私にとって、そういった北海道の描写はちっとも魅力的でなく、むしろ、行きたい気持ちがその瞬間に無くなりました。運命かもしれませんが、2007 年に北海道に行く機会が訪れ、最初**予定していた6ヵ月間の滞在が6年の滞在に**なってしまいました。

日伊両国語で報告するマリアンナさん。隣は菅原明子理事＝12 月 6 日、ミラノサローネ

この年、私が通っていたペルージャ外国人大学が、札幌大学と提携することになりました。それをきっかけに私は札幌に行きました。留学先を決めたのは私ではなく大学の日本語の先生でした。私は、東京に行きたかったのですが、先生のしつこさに負けました。私は6年前から札幌に住んでいます。仕事があるので仕方なく札幌に住んでいるわけではなく、札幌に来てから札幌に住むことを決心しました。北海道に行く前と行ってからのイメージがかなり違っていて自分も驚きました。やはり、人の話のみではなく自分の目で確認すべきことが多くて、北海道もそうでした。

新しい生活になり、どんどん札幌のことに対して関心を持つようになりました。札幌は東京や大阪とは異なりインパクトのある街ではなく、札幌で時間を過ごせば過ごすほどその街の個性が徐々にわかるからです。正直いうと、札幌は東京や大阪ほど刺激的な街ではない、毎日新しい経験のできる街ではないが、札幌なりの素晴らしさを感じさせる街であるとは言えます。**札幌は、一言で言うと、住める街です**。東京と大阪に住んだことのある私ですが、将来も日本にいることになるなら、私は札幌を離れたくないと思います。

日常的な生活で説明すると、札幌は環境が良いです。**自然が多い、道が広い、空気がきれい**です。また、サイクリングロードも多いので**自転車に乗ってどこにも行けます**し（冬以外！）毎日電車に乗る必要がありません。このような点は重要で、様々なこと（仕事、家族、機嫌）に影響を与えます。今まで述べた北海道の良いところは、以前つまらないと思っていましたが、大間違いでした。

先ほどの友達（函館出身）は北海道の食べ物が美味しいと何度も繰り返していましたが、故郷なのでそう言うしかないと私は思っていました。でも本当のことでした。特に乳**製品、お米、ジャガイモ、トウモロコシ、りんごが美味しくて独特な味**だと言っても過言ではありません。私のお父さんもイタリアでは牛乳などを飲んだりしない人なのに北海道にいるときには毎日乳製品を食べたがっています。

残念ながら、現在北海道の素晴らしさに気づかない若者もたくさんいます。重要なことは比較すること。私も北海道以外のところにも行ったので、北海道に住む価値がわかりました。

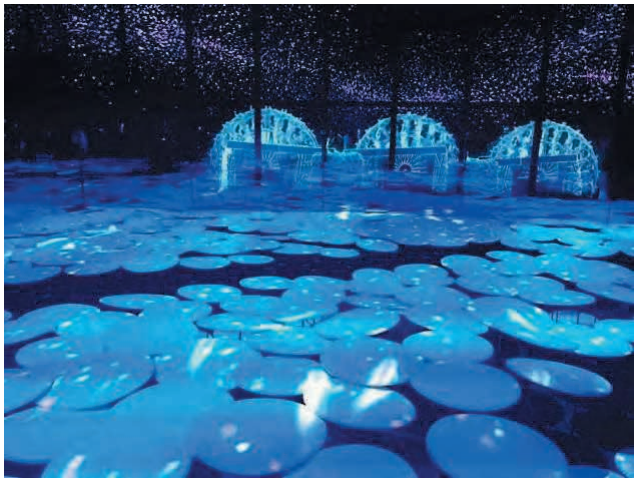
北海道の歴史はそれほど長くなく、また、京都のような街とは異なり、街を歩いても日本を代表とするお寺と神社を見かけることはない。だが、北海道にもそれなりの観光スッポットがあります。まず、自然です。アウトドアが好きな人にとって、**カヤック、スキー、スノーボードなどを体験できる**場所が多く、世界的にも有で外国からの観光客も多い。海の近くに生まれて育った私でもスキー・スノーボードにハマってしまい、今は毎年雪が降るのを待っています。以前、雪は北海道の良くないところだと思っていたのに、北海道に住んでから雪の楽しいところを発見し、**雪を楽しめるようになりました**。

自分が驚いたのは**北海道大学が観光スポットである**ということです。イタリアの大学では考えられませんが、北海道大学は日本で一番広いキャンパスで、川や池などがあり、大学とは思われないぐらい緑のある空間で、朝から観光客はが写真を撮ったり、犬の散歩をしたりしています。スケッチする

ミラノ万博

北海道の食と酒 イタリア・欧州デビュー

幻想誘う 日本館の展示



大活躍の通訳チーム。マリアンナさん（右）

北海道の日　さあ鏡割り
賑わうレストラン

人も少なくない。研究者でいる私にとって、論文がなかなか書けないとき、どうしても解けない問題があったとき、良いアイデアが思い浮かばないときには学内に**散歩に行って綺麗な空気を呼吸したり広い並木を歩いたりすることによって、頭が自然に動き始めます**。最高の環境で、様々な面で素晴らしい大学に通うことができ、本当に嬉しかったです。

日本人の「あなたの国にも四季がありますか」という質問に驚く外国人が多いです。あることは当然なので、この質問の意味は理解しづらいものでした。幸いイタリアは四季がはっきりしています。私はずっとそう思っていましたが、北海道に1年以上住み、四季を経験してその意見が変わりました。

イタリアの四季と北海道の四季を比較してみると、色の違いが明らかです。イタリアの場合、一般的には夏を描写する色が青、春が緑、冬は灰色、秋は茶色です。それに対して、**北海道の四季は、夏が青と緑、春がピンク系、冬が白、秋が黄色と赤**です。北海道の人にとって秋はむしろ、明るくて1年のうちでより好かれる季節だと言えます。個人的な意見ですが、私は秋がより素敵な四季だと思い、時間が許す限り秋のあいだに北海道を全体回してみたいです。北海道でしか見られない景色を満喫したいと思っています。

では皆様に自分が6年かけて札幌と北海道を回って撮った写真を、四季それぞれの色に分けてお見せしましょう。

人生！音楽の旅 ⑲

三部　安紀子

スメタナ劇場の感激

満員の聴衆　日本の情緒に酔う

昨年の８月新潟のﾎｰﾙでの出来事でした。私達 Chor Traube 女声合唱団 18 人は、全国おかあさんコーラス地区大会で北海道代表に選ばれ新潟で演奏しました。　我々のステージが終了した途端、ひとりの女性が私のところに来て「来年この作品を持ってプラハのスメタナ劇場で歌いませんか？」

あまりの唐突の言葉で「エッ？（私は即答出来ない！）後日連絡します」という言葉を残しただけでした。メンバーと相談した結果は、皆大賛成でしたが、５人ほど都合がつかない仲間が出て、残り 13 人ではあまりに舞台が寂し過ぎると思い、コーラスの 2、3 のグループにお声掛け。直ぐに 32 名希望者がまとまりました。あの時なんと嬉しかった事か…

指揮者としても責任があり、日本人として恥じない素晴らしい演奏めがけて約１年、練習、練習、稽古、稽古。コーラスといえどただ立って歌うのでなく、それぞれの曲にパフォーマンスつまり踊りながらの曲づくり。全曲日本の歌でしたがかなりの過酷な練習を強いました。

でも途中挫折するメンバーが出なかったのは、あの憧れのアールヌーボー様式の建物、天井一面のフレスコ画、歴史を物語るステンドグラス等…の劇場の舞台に立ちたかったからでしょう！プラハといえば、モーツァルトの街でカフカの街でもあり、建物マニアにとっては優雅な建物の宝庫！街全体がまさに世界遺産。その街の劇場で歌う喜びの為に頑張って本番に向かったのでした。

スメタナ劇場の古い格調ある劇場をこの眼で見た時には思わず興奮しました。本番。舞台袖から一歩出ると、会場は満員の観客、それもチェコの人々ばかりで東洋の顔はひとりも見当たらない…これもびっくり！1100 名の劇場、ポスターが掲げられていたのは数ヵ所で見ましたが、まさか満員とは…

私達は張り切りました。本番はのびのびと「日頃の練習の成果が出ている」と指揮をしていて感動を覚えるほど感じました。練習の時いつも音楽の心を忘れない。そう言い続けてきた「心」を大事に歌ってくれたのです！８曲の演奏、素敵に終了。観客の情熱的な拍手がいつまでも続きました。

終了後、私達は玄関に出てお客様達に、日本から持参した小さなお土産を手渡し、そこで様々な心に残る言葉を頂きました。

「昨夜まで暗い心境の生活していたけれど、今日の貴女方の音楽聴いて心和み、今とてもしあわせです」「日本にとても行きたくなった」「日本人の素晴らしい情緒さが手に取るように判った」「日本人と結婚したい」とまで…？

中には感激して泣いてくれたチェコ人がいて、それを見て出演者も涙、涙！

劇場の総支配人からも、これまで日本人が多数出演した中で今回は断トツに一番素晴らしかったというお言葉頂き、指揮者の冥利に尽きます。

プラハ・スメタナ劇場で指揮する筆者

この旅はプラハに３日間泊り、本番終えた翌日はバスで世界遺産のチェスキークルムロフ旧市街を見て、ザルツブルグで１泊、ウイーンに２泊しての帰国。本当に素敵な旅で、大勢の参加者が心一つになってステージ踏むことが出来たのが何よりの成果でした。

言葉が出来なくとも音楽には全てに通ずる心がある、その心を私達は常に共有することができるのです。音楽の力ってすごいぞー！

（会長、北海道二期会理事長、みべ音楽院長）

三部安紀子会長は 12 月 11 日、地域に根差したオペラ活動、国際交流への貢献により文化庁長官表彰を受賞されました

2016 年新春　Salone　d'Italia（イタリア懇話会）のお知らせ

ポンペイの遺跡を生んだイタリアの火山とは…

ベスビオとエトナ―その恵みと災害

講師　鈴木哲也・会員、北海学園大学勤講師、理学博士，工学博士

1月30日（土）午後 5 時～6 時。引き続き新年懇親会（8 時終了）

会場：丸井今井 10 階「メイン・ディッシュ」（札幌市中央区大通西 2 丁目）

会費：サローネのみ 500 円、新年懇親会は会員 4000 円、一般 4500 円

参加ご希望の方は事務局へ　電話 011・241・0345

Eメール：shin-y0123@brightsapporo.com

伊語教室の新講座がスタートします。

≪イタリアの地理教科書を読む≫　**1 月 9 日から毎週土曜日 4 回**

長靴によく似た形をして地中海に向かって突き出たイタリア半島。そこにはいったいどんなものがあるのでしょう。また、そこに住む人々はどんな暮らしをしてきたのでしょう。小学校の地理の教科書を教材に使って山や川、気候や地域の特長を易しく学んでいきます。イタリア語のレベルは問いません。

講義室：当会イタリア語教室
（札幌市中央区南 1 東2　ブライト・サッポロ 2F）
講義時間：13：30－14：30の 60 分
受講料：4 回 11000 円（冬季間暖房料含む）
申し込み：事務局　011－241－0345
問い合わせ：m2wrsci@happy.email.ne.jp

春以降に開催されたサローネ

Salone　d' Italia

■　7 月 10 日「イタリア中世美術との出会い―シエナ、ローマ、ナポリ」
講師：谷古宇　尚・北大大学院文学研究科教授

■　7 月 25 日「知らないと困るイタリア発の政治的キー・ワード―小林多喜二を契機に考えるグラムシやムッソリーニの時代　講師：倉田稔・小樽商科大学名誉教授

■11 月 13 日「石炭に生きた島　サルデーニャの今」講師：ウッケッドゥ・ロレンツォさん（サルデーニャ島在住）、アシスタント：ライ・エステルさん（同）司会と通訳：空デーニャ・プロジェクト代表　ウッケッドゥ・ダビデさん（会員、三笠市）＝14 面参照

サローネ CINEMA　■6 月 12 日『人生ここにあり』　■12 月 1 日『白夜』

日伊親善フォーラムで歓迎スピーチ

米倉副会長

日本とイタリアの親善フォーラム「大学の国際化に向けて」が 7 月 29 日（水）北大工学部 2 階の鈴木章ホールで開かれ、北海道日伊協会を代表して米倉紘一副会長が開催を歓迎するスピーチをしました（写真。右は通訳したルーカさん）。

この中で、北大とイタリアの関係について、戦時中、フォスコ・マライーニ氏が在籍しアイヌ民族研究や登山技術に功績を残したこと、昨夏ドメニコ・ジョルジ駐日イタリア大使ご夫妻をご案内したことなどを紹介。イタリアのスローフード運動には大いに学ぶところがあり、ミラノ万博の北海道の魅力発信には、北大留学中の 2 人のイタリア人会員が活躍していると話しました。

北大理学研究院数学部門の主催。イタリア大使館のメンゴーニ博士が日伊経済の概観分析のあと、午後、ピサ出身で同研究院特任講師シモーナ・セッテパネーラさんが基調講演、6 人の発表がありました。

編集後記　「一番おいしかったものは？」「ジャガポックルです」。ミラノ万博報告サローネで、マリアンナさんの答えに会場は爆笑。来客の対応で食事の時間もなかったそうです。「見事におんぶにだっこでした」（横田道農政部食品政策課長）と感謝されるほど、北海道の魅力発信の役割を一身に担ったよう。特集でそのあたりを感じてください。仙台協会のツアーの寄稿もあり、今号もイタリアの魅力を伝える文章満載です（彦）